

## 平成28年度 第1回加西市立図書館協議会 議事録

日 時 平成28年6月30日（木） 15：00～16：45

場 所 アスティアかさい3階 会議室

出席者 委員9名：河原喜久子、岡本教穂、山端一男、中安恵子、藤原美穂、本玉元、  
小林俊広、岡章雄、大塚淑子

教委・図書館4名：達可教育次長、高井館長、伊藤館長補佐、増田主任

欠席者 岡本昌文

1. 開会 伊藤館長補佐が開会を伝えた。（15：00）

2. あいさつ

会長あいさつ

- ・播州弁検定は、よい企画で、参加者も多く成功に終わった。ことばは生きものであると実感したが、図書館はそのことばを活用して、読書が進むように工夫していただきたい。

教育次長あいさつ

- ・宮城県気仙沼市の街中に、「図書館へ行く道を きいている あのおじさんは きっと 好い人にちがいない!」と刻まれた碑がある。教育的風土をささえる一つの機関として図書館はあると言っていると思う。加西市立図書館が地域の人に愛されて、多くの人が集まり、本を貸すだけでなく、情報発信の基地として、知識の広場として愛されることを願っている。
- ・平成27年度は、貸出冊数が417千冊を超え、平成26年度より2万3千冊の増で、5年ぶりに40万冊を超えた。来館者数も23万人を超え、前年度より約4千人の増となった。
- ・平成28年度は、子どもの読書推進を進める、市立図書館と学校図書館との連携事業も2年目を迎え、小・中・特別支援学校に本を貸出して回収するサービスや本の読み聞かせ等も積極的に計画している。
- ・平成28年度は当初予算で200万円を計上し、子どもの絵本や調べもの学習に役立つ本を購入予定である。また、先日、図書購入予算として50万円の寄附をいただき、子ども用図書で選書を進めている。

3. 事務局紹介

4. 議事

伊藤館長補佐から、これからの議事の進行を本玉会長に依頼した。

（1）平成27年度図書館実績報告について（高井館長説明）

委員：学校連携事業の中で、「ブックトークとおはなし会」に4校訪問されているが、他の学校との連携はどうなっているのか。

事務局：今年度もすでに、何校か訪問しているところですが、学校からの要望をもらって、ブックトークや本の託送、書架整理等ではすべての学校を訪問している。

委員：昨年7月から読書手帳の配布が始まったが、図書館で借りた本にしか読書手帳は使えな

いのか。

事務局：読書手帳シールは、図書館で借りた本について発行するが、それ以外の本は、読書手帳に直接記入することもできる。

委員：大人でも利用可能か。

事務局：利用可能である。

委員：読書手帳が一杯になったらまた、もらえるのか。

事務局：カウンターで言ってもらえれば、お渡ししています。

委員：本を借りて、見える形で残していけるのは良いことと思う。

委員：読書手帳には、シール型と通帳型があると思うが、なぜシール型になったのか。

事務局：かかるコストに大きな差があるためである。

委員：図書の貸出しは増加しているが、AVは減っているが、なぜか。

事務局：ビデオが古くなってきているのと、DVDは1本の値段が高いためかと考えられる。また、CDは、CDそのものが売れなくなってきている、買わなくなってきている状況がある。インターネット上の配信サービスが増えてきている。

委員：来館者数が増加したのは、なぜだと思うか。

事務局：いろいろなイベントを開催したことも一因にあるかと思う。

委員：図書館見学はどのようにして来られるのか。

事務局：バス遠足の訪問先の1つとして、来館されることが多い。図書館だけではなく、他の施設を見学し、その後に立ち寄る等が多いようである。

委員：中学校の出前講座は、ボランティアの方に協力してもらっているのか。

事務局：図書館のボランティア団体「かさい・えほんの森」の会長様にご協力いただき、4中学校でブックトークを行っていただいた。

委員：インターンシップ1名というのは、こんなものなのか。

事務局：小野高校の生徒で、例年、学校側から依頼があり、受け入れている。今年は対象者がいないとの連絡が高校よりあった。

委員：30歳未満の若い世代の利用者数が少ないが、何か対策はあるのか。

事務局：若い方は、スマホやネットから情報を得て、本離れが進んでいるのかと思う。中高生は図書館に来て、勉強をしていたりして、本を借りない場合もある。図書館に来ていても、本を借りないと数字には計上されない。また、小さいお子さんと、保護者の方のカードで借りられるため、数字に計上されないことも多い。

委員：趣味の会でも、小さい頃は入っていても、中高生になると部活があるため、続かなくなることが多い。しかし、小さい頃に本を読んでいれば、ある程度の年齢になれば復活して、また読んでもらえるようになるのではと思う。

事務局：図書館でもそう思って、読み聞かせや出前講座を行っている。また、託送も行って少しでも本が目に触れるようにしている。

委員：若者向けの本も意識して購入しているのか。

事務局：ヤング・アダルト向けの図書も、内容を厳選しながら購入している。

## (2) 平成28年度図書館事業計画等について（高井館長説明）

委員：昨年、「夜の図書館」のイベントに参加させてもらった。今年はないのか。

事務局：やりたいのだが、スタッフの準備等の労力が大きい、参加できる人数が少ない。図書館としては、幅広く多くの人に楽しんでいただきたいので、今年は行わない。

委員：トライやるウィークの割り当ては、各校どのようになっているのか。

事務局：各中学校から2名ずつ来てもらっている。人気はあるようだが、図書館ではそれ以上の人数は受け入れることができない。

次長：公共機関には、各校、等しく割り当てたいため、学校教育課でこの人数に決めている。

委員：幼保の園長会で、図書館の利用について、教えていただき活用している。各園に図書館から来てもらって、園児に本の良さを知ってもらい、たくさん本を借りてもらえればと思う。

委員：小さい子どものいる母親は、本だけ借りに図書館に行くのは億劫である。遊べる場所があって、そのついでに本が借りられればよいのに、と思っている。図書館の同じフロアに子ども用と大人用の本が置いてあれば借りやすい、との意見がある。また、上に並んでいる（ブックフェイスしている）絵本から借りている。定期的にブックフェイスする本を変えてみたらよいのでは。

事務局：スタッフに、より一層気をつけるように伝える。

委員：ある本を探していたら、スタッフの方が「閉架書庫にあるので探してくる。」と言って出してくれた。声をかけることが出来ない人は、本を借りにくい。また、スタッフは相談しやすい雰囲気があると思う。

委員：ワンフロアでないため、不便なところもあるかもしれない。

事務局：離れているため、キッズのコーナーで、子どもさんが少々騒いでも大丈夫という利点もある。

委員：母親が好きそうな雑誌をキッズコーナーのそばに置いてあればよいのに。

委員：配架上、仕方ないところはあるが、直せるところは直してほしい。

### (3) 平成27年度図書館施設修繕の報告（増田主任説明）

事務局：図書館設備の老朽化に伴い、電話設備改修工事、ウォシュレット取替工事、エレベータメインロープ・バッテリー交換修繕工事を行った。電話設備については、電話交換機の部品の在庫がなくなり、壊れた場合に修理ができなくなる。業務に支障をきたすため、電話交換機1台と電話機43台を交換した。ウォシュレットの便座については、使用頻度が高く、壊れるたびに修繕を繰り返していたが、交換する方が、コストが安くなるということで、15台の便座を交換した。エレベータについては、メンテナンス業者より、経年劣化によりメインロープと地震感知器バッテリーの交換が必要であるとの指摘を受け、安全面を考えて交換した。

### (4) 「かさい・えほんの森」サルビア賞受賞について（伊藤館長補佐説明）

事務局：平成15年より、アステシア加西において図書館開館以来、図書館ボランティア団体として活動いただいている「かさい・えほんの森」が加西市善意の表彰のサルビア賞を受賞された。毎週土曜日に、親子のための絵本の読み聞かせを、また、平成23年からは

絵本と音楽を組み合わせたイベントを開催していただいている。6月4日（土）アスティアかさいにて贈呈式があり、松本会長が出席された。

委員：今後ともご協力をお願いします。

(5) 「ちょっとおもしろい播州弁検定」の報告（伊藤館長補佐説明）

事務局：6月5日（日）アスティアかさい3階交流プラザにおいて、播州弁研究会の協力のもと、「ちょっとおもしろい播州弁検定」を開催した。

当初は80名定員の予定であったが、申込み多数のため、定員を100名に増やし、抽選を行った。申込者の253名の内訳は、加西市内115名、市外138名、年齢は15歳から88歳であった。当選者の内訳は、加西市内42名、市外58名、年齢は15歳から86歳までである。当日は11名欠席で受験者89名での開催となった。ほとんどの方が合格され、最高得点は97点であった。参加者の方には、播州弁下敷きを、合格者の方には、合格証と播州弁オリジナルトートバッグを記念品としてお渡しした。

委員：たいへん好評であったようだが、来年も開催する予定はないのか。

事務局：まだ、正式に決まってはいるが、開催する方向で検討している。

委員：昔からよく使っている播州弁だが、知らない言葉や、ニュアンスが違うのではないのか。と思うものもあった。

事務局：播州弁研究会で問題を作成してもらったが、加西弁ではないので、相生市や赤穂市の方言もあるため、聞いたことのない言葉もあったと思います。

委員：方言には、意味的なものとイントネーション的なものがある。イントネーションも問題にしてほしかった。

事務局：アンケートの中に、「テープを流してほしい。」「ヒアリングをしてほしい。」「文脈の中で、播州弁を使用した問題を出してほしい。」との意見があった。

委員：参加費は無料なのか。

事務局：無料です。

委員：かかった費用は印刷代だけだったのか。

事務局：播州弁研究会への委託料と印刷代、トートバッグ・記念品代、機材借上料くらいである。

委員：受験者は合格発表の後はすぐに帰られたのか。

事務局：合格された方に合格証と記念品をお渡しして、その後帰られた。

委員：申込者は市内よりも市外の方の方が多かったのか。

事務局：市内が約45%くらいでした。市外は京都、大阪、神戸、明石、播磨管内その他県内各地からの申込者であった。

委員：播州弁検定の情報は、みなさんどこから得られたのでしょうか。

事務局：アンケートの結果を見ると、新聞、広報、ホームページ、チラシ、知人等からであった。合格された方でも、また来年も受けたいという意見が多かった。

委員：播州弁検定は、今後どうするのか。継続するのか。

事務局：図書館で開催するかどうかを含めて、具体的には決まっていないが、開催の要望は聞いている。

委員：問題が一番重要だと思うが、播州弁の言葉の数はどれくらいあるのか。

事務局：言葉の数はたくさんあるが、似たような言葉も多くあるので問題作りが難しいと思う。

#### (6) その他

事務局：加西市立図書館について掲載のある新聞記事と、図書館の利用状況をまとめた資料を配付している。

委員：学校図書館の図書を廃棄する場合の基準はあるのか。

事務局：学校図書館には、何十年もたった古い本が置いてある。学校の耐震工事の際に、本を整理するにあたって、市立図書館に要望があり、本の整理や廃棄の手伝いをした。市立図書館では「何年たっているから廃棄する。」というのではなく、内容があまりに古くなって、事実とそぐわなくなっていれば廃棄すればどうか、とアドバイスしている。学校に寄贈された本であれば、古くても置いておくという状況もある。

委員：本が古いというのもあるが、学校現場で、本についている埃等でアレルギー症状の出る生徒がいると聞いた。活字離れの問題もあるが、健康面での問題が最近はあるのかと思った。市立図書館では、そのようなことはないか。閉架書庫はどうか。

事務局：この建物自体の湿度は非常に低いのだが、過去に閉架書庫の検査をしてもらったところ、ほとんど菌がなかった。これは湿度が低いことによるものであると考えられる。

委員：前回3月に開催された図書館協議会で、委員の方から「1人用の椅子がほしい。」「児童用図書コーナーの照明が暗い。」との意見が出たが、その後どうなったか。

事務局：1人用の椅子については、1人用の机と椅子がセットになった「キャレル」のことか。それであれば値段が高く、スペースもそれほどないため、現状を確認したい。次に、児童用図書コーナーの照明については、前回の会議後に見ていただき、照度は充分あり、大丈夫であると聞いている。別途、「カウンターの照明が暗い。」との意見があり、照明を増設した。また、「トイレの照明スイッチの位置がわかりづらい。」ということで、センサー式の自動照明にしている。

委員：前回3月の図書館協議会で、「中学校の学校図書館の開架時間が短い、学校に働きかけることはできないか。」との意見があったが、その後どうなったか。

次長：現状として、放課後は、部活動が始まるまでの時間はほとんどない。そのため、生徒が本を借りに行ける時間は昼休みぐらいしかない。しかし、昼休みの自由時間も短く、現実的に開架時間を長くすることは難しい。その代わりに朝の読書時間を設けている。昼休みに学校図書館を覗くと、生徒がたくさんいて、本を借りなくても、本を広げてみんなで見ている。これはこれでいいのかなと思う。

委員：それでは、開架時間は現状維持のままということか。

事務局：国語の時間に図書館を紹介したり、読書新聞を作成するときに学校図書館の本を貸し出すことは可能である。それから、学校図書館の蔵書数が減ったとの話が先ほど出たが、学校図書館の標準蔵書数に比べて、加西市は、平成27年度末現在、小学校は129%、中学校は81%である。

委員：「かさい・えほんの森」がサルビア賞を受賞されたが、各学校で読書ボランティアとして活動されている団体は、どこが推薦するのか。不公平感がないように教育委員会で検討していただければと思う。また、テラスに出て本を読もうとするときに、「暑いのでパ

ラソルがあればいいのに。」との意見を聞く。それと、スタッフの人数が少ないため、4階のカウンターにスタッフがいないことがあるため、「スタッフを呼ぶベルがあればいいのに。」との意見がある。

委員：図書館には、ゆるキャラのようなキャラクターはあるのか。

事務局：着ぐるみは作っていないが、「図書館太郎」というイラストを作成している。本の形をしたキャラクターである。図書館の公用車に「図書館太郎」のイラストを描いている。

#### 4. 連絡事項

次回開催は、平成29年3月中旬から下旬の予定で了承を得た。

#### 5. 閉会 藤原副会長が閉会の挨拶をした。

- ・6月と10月の読書月間には、「ぶらんこの会」は、6人がフル出勤で活動しているため、6月が終わって、少しホッとしている。子どもたちには、夏休みに向けて時間があるときには、たくさんの本を読んでほしいと伝えている。

(16:45終了)